

(出来形管理関係)

様式 1

平成 年度	工事
出来形管理図表	
品質管理図表	
種 目	
事業所	支所
	受注会社名

注) 1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴り
とすることができる。
2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。

出来形管理図表

工 事 名 _____ 受注会社名 _____

工 種 名 _____ 測 定 者 _____

管理基準値 A		規格値 B		測 定 位
+	-	+	-	

[illegible]

度	数	表
---	---	---

工種名	年	月	日	現在
-----	---	---	---	----

**受注社会
测定者**

度数 (回)

差の設計値と (-) (+)

注) 出来形管理で20点以上の場合使用する。

測定結果一覧表

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位	
+	-	+	-		

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位	
+	-	+	-		

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 $E=D-C$	管理基準 値との差 $F= A - E $

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 $E=D-C$	管理基準 値との差 $F= A - E $

記入事項

- 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。
- 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
- 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
- Fを算出する|A|値は、 $E > 0$ の場合は+側の値を、 $E \leq 0$ の場合は-側の値を用いる。また、|A|値が+側か-側の片方、若しくは両方ない場合は、その符号側はF=「-」とする。

鋼管溶接測定結果一覽表

工事名

受注会社名

工 種 名

測定者 _____

[illegible]

鋼管溶接、塗覆装点検表

工事名

受注会社名

測定者

[illegible]

埋設とう性管たわみ量管理表

工 事 名 _____

受注会社名 _____

管種(長さ) _____

測 定 者 _____

測 定 位 置 (管番号)	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm) (内径)(管厚)
	D u mm	たわ み率 %	Dh mm	たわ み率 %	D u mm	たわ み率 %	Dh mm	たわ み率 %	D u mm	たわ み率 %	Dh mm	たわ み率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100 (\%)$$

$$\Delta X = [2R - (D u + t)] \text{ 又は } [2R - (Dh + t)]$$

2R: 管厚中心直径

t: 管厚

注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。

2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理 管水路工事 管水路(埋設とう性管)の測定基準による。

3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

鐵筋組立檢査結果一覽表

[illegible]

種名

[illegible]

測定箇所：(設計上の位置及び名称)

記入事項

1. かぶりの許容誤差は $\pm \phi$ かつ最小かぶり以上とする。
2. 鉄筋間隔の許容誤差は $\pm \phi$ とする。
3. 判定欄は合格、不合格を記入する。

杭打ち成績表

工 事 名 : _____ 受注会社名 : _____

工 種 名 : _____ 測 定 者 _____

杭打込み 月 日	杭番号	杭規格	測 定 時 杭深度(m)	ハンマー 落下高(cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図

適用公式名: _____

設計支持力: _____